

# 門信徒だより

2020 5月 下旬

和上 発

コロナ災害自粛も一部地方で解除が始まりましたが、まだ都道府県では継続していますので 安心は先のようにです。

このお便りも今回にて終わらせていただきますが、再会ができなかった分、私達の仏道を歩む勇気を増長されますことを佛祖に念ずるばかりでした。

ゆいしんしょうもいん 唯信鈔文意に親鸞ねんしょうぜいち元祖は善導師の念声是一釈を引かれて『文字の意を知らぬ者の為に』と奥書にのべられ、

“念と声とは一つの意なり、念をはなれたる声なし、  
声をはなれたる念なしと知るべし”

と教えられました。

この事は先代聖人が、真宗の極意であると申された事が思出されるのです。

「念ずる」と云うことは祈り心とは違い、憶念しんの心常にして仏恩報ほうずる思いなので、他力信心の智恵に働らかれて起る自然法爾じねんほうにの姿なのです。

これに対して「祈り心」は自分の利益を求めたり、悲しみや苦しみから逃れようとして神仏しんぶつの加護かごを利用するのですから、神仏の心を知ろうとせずに都合の良い時だけ起こす本能的衝動心なのです。

蓮如上人のいろは歌にも

『憂うきことを よろこぶ信もあるものを いのり心をやめよ みなひと』

と詠まれ、先代聖人も歌のあらましとして、

“他力の信心をおこされた人は、禍いも災難もすべてが信心をよろこび、穢土を厭はせる試練であるし、業報を受ける度に三世の精算になるから、祈る心を捨てて、つつしんで業報を受けよ”

と申され、他力金剛の心に立帰ることを強調されたのであります。

「念ひとつと声は是れ一」の言葉は、十八加減文かげんもんの『下至十声げしじゅっしょう』を説かれた 覚者の胸のうちに現われた大悲報恩の姿であって、一念（帰命心）の積つもりが十念となり、十念をつづめた姿が一念に収まる仏心活動の 幾度も幾度も佛の眞実心を与へてやりたやの哀れみであって、このやるせなき一子を養育する親心が佛の憶念であり、この親心が子供の成長の原動力となって世に活動を始める子供の心

したさき  
の下支えとなって、何の不足、不自由なく堂々と活動で  
きる躡しつけの力となるのでした。

そして子供が何事かを行っている時に、「ふっど」帰る  
所が親心の手強き世界があった事を尊とく重く感ずる  
姿が、衆生の仏への憶念の姿となるのでした。

内に秘めれば憶念であり、外に現わせば声となるので、  
これは称名の声も同様なのです。

所が「祈り心」は自己満足の要求でしたから、神仏はお  
悲しみとなり、時にはお怒りとなって対されるのですか  
ら、いろは歌の意こころも知られるところでありましょう。

真宗は『仏の名号を以て経体きょうたい』とする主張で、仏の本願  
を名号の力を以て説き与えようとされる真実教ですか  
ら、先程の親心も名号の叫びであったと味うべきであり  
ます。

「御報恩のために御念仏オンこころに入れて申して」（御消息  
二）とは第十八願の御念仏に徹底して、の意味でここに  
念声ねんしょうぜいち是一の真意を伺えるのであります。

世の中が静かにおさ治まって再会の時が早やく訪れることを  
念じて筆を置きます。ご気嫌よろしく。

不 許 複 製

所有者 弘願真宗総本山聖玄寺法燈局

住所 福井県福井市羽水 1-303